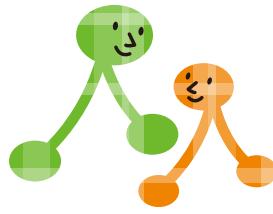


秋田県男女共同参画情報誌【ラ ヴィータ】



La vita

ラ ヴィータ：イタリア語で“生命・人生・生活”

vol 78

2011.10.31



特集

人と人との
よりよい関係のために

ラ ヴィータな人々
～育休をとった男たち～

いきいきクローズアップ
「秋田市民おやこミュージカルを上演する会」

男女イキイキ職場訪問
「株式会社小貫建設」

知ってるつもり!?
イマドキの男女共同参画
「コーチング」

いんふおめーしょん
男女共同参画講演会
「ワーク・ライフ・バランス～仕事と介護の両立～」を開催しました。

第3次ハーモニープラン(愛称)
第3次秋田県男女共同参画推進計画
(平成23~27年度)

計画の目標

```

graph TD
    A[「多様な考え方・生き方・働き方を活かした元気あふれる社会へ」] --> B[① 性別による差別の解消]
    A --> C[② 政策・方針決定過程への女性の参画拡大]
    A --> D[③ 多様な生き方に応じた働き方の実現]
    
```

秋田県



人と人との よりよい関係のために

～高校生向けデートDV予防セミナーから～

このセミナーは9月15日、今春から男女共学になった秋田県立湯沢翔北高等学校(西聰校長)で、2年生241名(男子105名、女子136名)を対象に開催されました。

講師を務めた、あきたF・F推進員(羽後町)の佐藤万里子さんが「デートDV」という言葉を知っていますか?と体育館に集まつた生徒たちに問いかけると、まばらに手が挙がりました。

セミナーでは3つのデートDVのケースがアニメで紹介されました。ケース1は、「身体的暴力」の例でした。暴力にまで至ってしまった二人はどうすれば良かった?との問い合わせに対し、「怒らざきらん」と話し合えばいい(男子生徒)、「相手の気持ちをもつて考えればよかったです」と思います(女子生徒)という答えがありました。

佐藤さんは、「相手の意見が自分の意見と食い違つた時や相手が自分の

第3次秋田県男女共同参画推進計画(愛称: 第3次ハーモニープラン)では、「男女が認めあい思いやる関係を築いていく」を推進の柱の一つに据え、性別による差別の解消と、女性に対するあらゆる暴力の根絶をめざしています。

そのため、副読本の活用率を上げるとともに、DV予防教育の実施校を5年間で32校に増やすことも、施策目標にしています(平成22年度21校)。

「デートDVは親密な間柄で起つる暴力です。皆さん普通だと思っている行動の中に暴力につながるものがあるかもしれません。交際相手に暴力を振るわない、暴力を受けない関係を築くには、どうしたらいいのでしょうか?また被害を受けた時、友人から相談を受けた時、どうしたらいいのか?自分も相手もHAPPYな素敵な関係になるために大切なことは何でしょうか?一緒に考えていきましょう」。

佐藤さんは、生徒たちにやさしく語りかけ、セミナーは始まりました。

**相手の気持ちを考えて(女子)
怒らず話しあえらい(男子)**



思い通りにならなかつた時に、力や態度で一方的に自分の考え方を相手に押し付けようとするのはいけないことで、どんな事情があったとしても暴力をふるつてはいけません」と話しかけました。

ケース2は「精神的な暴力」の例。

「私以外の女子と話すのは禁止!携

帯のメモリも消しちゃう!」と男子から携帯電話を奪い、電話番号とアドレスのメモリを女子生徒が削除してしまったシーンで終わると会場の高校生たちからざわめきが起きました。どういう気持ちかを考えても「やつぱり、つきあっているけれど、他の人と話したい」(男子生徒)「この男の子がかわいいそうだと思いました」(男子生徒)、「誰と話してもいいはずなのにそこまで否定されはいけない」(女子生徒)とのコメントが聞かれました。

生徒たちに広がる理解と共感

「人を好きになつたら、その人のことが気になるのは自然なこと。でも気になるからといって、相手の行動を監視したり制限したりするのはいけないことです。何故なら、相手は一人の『人間』として自由に物事を考え、決めることが出来るからです。交際しているからといって、その自由を奪うようなことをしてはいけないのです」。佐藤さんの言葉に真剣に耳を傾けている姿がありました。

ケース3は「性的暴力」につながる可能性のある例でした。同様に男子生

徒、女子生徒からそれぞれの立場の気持ちを考えてもらいました。「交際している相手に気に入られたいと思うのは自然なことです。でもそのためには自分たちは、自分たちの気持ちを我慢して相

手の言いなりになる必要はありません。何故なら、皆さんは、一人の「人間」として、自分のことは自分で決めることが出来るからです。皆さんのが嫌だと思うことを、受け入れる必要はありません」と佐藤さん。

お互いが楽しげに輝いているような素敵な関係になるには、「暴力を認めない」「自分のことを大切にする」「相手のことも大切にする」ということを生徒たちに伝えると、一人一人が、その言葉を受け止めていました。

これから今回のような取り組みが、県内各地で継続的に開催されることで「人と人とのよりよい関係」が実現されてゆくのではないかと期待が膨らむセミナーでした。

県内各地で継続的に開催されることで「人と人とのよりよい関係」が実現されてゆくのではないかと期待が膨らむセミナーでした。



養護教諭の大日向香保子先生

生徒たちは、デートDVというものが、日常的に起こり得ることを感じ、理解が深まったかと思います。とても貴重な時間となりました。なかなか担任教師が行うことは難しい部分もあるため今後も県と協力していかなければと思っております。

秋田県立湯沢翔北高等学校 データトDV予防セミナーインケート結果

1.性別(名)

男性	97
女性	110

2.セミナーの理解度

	全体	男性	女性
よく理解出来た	142	58	84
だいたい理解できた	59	35	24
あまり理解出来なかつた	3	3	0
回答なし	3	1	2

3.セミナーで印象に残ったこと、気づいたこと(一部紹介)

- ◎事例はいずれも片方が一方的だったので2人で話し合って相手の気持ちを確認することが大事なことだと解った。
- ◎相手のことをよく考えることも大切だけど、自分の気持ちをうまく伝えることが必要だと思った。

◎DVは身体的な暴力だけではなく、相手の行動をチェックするなど精神的な暴力があることを学んだ。

◎自分勝手な気持ちを押しつけて、相手を傷つけたり、困らせたりするのはとてもダメだと思った。

◎改めて友達の大切さを感じ、友達との付き合い方もよく理解できた。

◎言葉の暴力については自分の気持ちを言っただけでも相手が傷つくことがあるので、気をつけないといけないと思った。

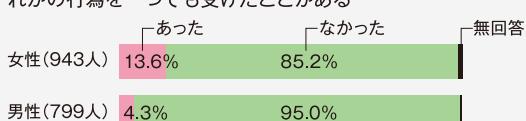
◎だれかに相談されたら、解決できるようにその人の支えになってあげたいと思った。

全国調査による交際相手からの被害経験

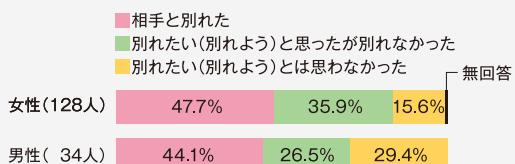
資料出所:「男女間における暴力に関する調査」(内閣府、平成21.3)

Q1

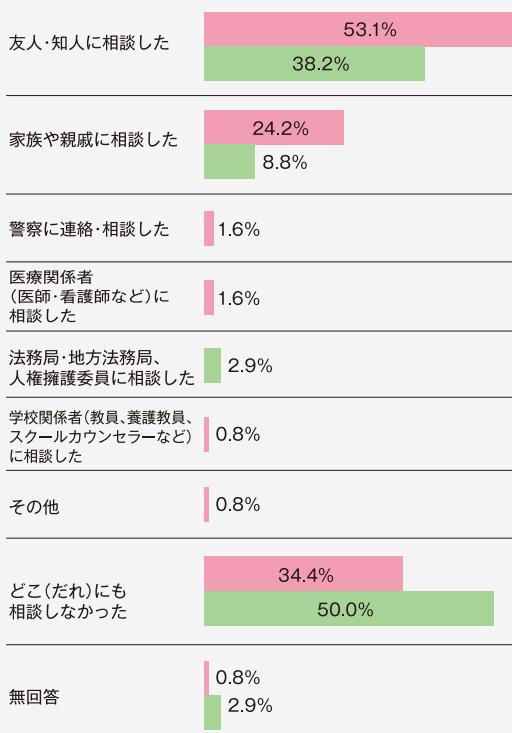
10歳代、20歳代で、「身体に対する暴行」「精神的な嫌がらせや恐怖を感じるような脅迫」「性的な行為の強要」のいずれかの行為を一つでも受けたことがある

**Q2**

その行為を受けたとき、相手との関係をどうしたか

**Q3**

その行為について、誰かに打ち明けたり、相談したりしたか
■女性(128人) ■男性(34人)



ひとりで悩まないで
もしもあなたが交際相手との関係に悩んでいたら、
まずはだれかに相談してみましょう。

相談窓口一覧

○ハーモニー相談室(秋田県中央男女共同参画センター)

TEL:018-836-7846

※夜間、日曜日も受け付けている日があります。詳細は、電話でお問い合わせください。

月～金／10:00～17:00

土／10:00～17:00

○秋田県女性相談所

TEL:018-835-9052

DVホットライン:0120-783-251

※携帯電話、県外からのご利用はできません。

月～金／8:30～21:00

土日祝／9:00～18:00

○秋田県福祉事務所

TEL:0186-52-3951(秋田県北福祉事務所)

TEL:0185-55-8020 (秋田県山本福祉事務所)

TEL:018-855-5171 (秋田県中央福祉事務所)

TEL:0182-32-3294(秋田県南福祉事務所)

月～金／8:30～17:15

○レディース通話110番(秋田県警察本部)

TEL:0120-028-110

24時間対応

(8:30～17:00は女性警察官が対応)

○女性の人権ホットライン(秋田地方法務局)

TEL:0570-070-810

月～金／8:30～17:15

○子どもの人権110番(秋田地方法務局)

TEL:0120-007-110

月～金／8:30～17:15

「**育休、まずは上司から**」

現在、6歳と2歳になる二人の娘がいます。私は、二女が生まれた後に育児休暇をとりました。そのきっかけは、会社と上司からの勧めでした。ワーク・ライフ・バランスを進める上で、どの社員も気兼ねなく後へと続けられる社内環境を整えられるように、事業所の業務所長を務める私が率先して休むことにしました。

う職業柄「お正月だから、連休だから」と曇どおりに休みが取れる仕事ではありません。むしろ、10日間もまとめて休みをとる事自体が初めての経験でした。

現在、6歳と2歳になる二人の娘がいます。私は、二女が生まれた後に育児休暇をとりました。そのきっかけは、会社と上司からの勧めでした。ワーク・ライフ・バランスを進める上

で、妻の気持ちを理解することができました。

また、家族とゆっくり時間を過ごせたことで、長女が覚えた言葉や仕草など、彼女の行動から、普段気付かなかつた成長の姿をはっきりと実感できただことが嬉しかったです。

「家族と仕事の大切さを知る」



佐藤 雄太さん(32歳)
株式会社ジェイエイ大館北秋田葬祭センターに勤務
平成22年2月19日～2月28日 育児休業取得

子育ての体力は特別

<<<

日頃忙しい私の育休取得には、妻も大賛成。あいにくこの期間は、娘たちが体調を崩し、育児と看病に徹する毎になりました。ずっと自宅にいて感じたのは、「育児にはいつもとは別の体力が必要」だということ。子どもたちは、絶え間なく動き続けます。休日に遊びに連れていくのとは

まったく違った成長の姿をはっきりと実感できただことが嬉しかったです。

これまで漠然と「家族を守る」のが私の役目だと考えていましたが、この育休は「家族の大切さ」や「仕事をに対する意識」を再確認できる貴重な機会になりました。どんなに短い期間でも、育休は自分にとってのプラスになるはず。もし取得できる環境にあるのなら、進んで経験することをおすすめします。

短期でも経験はプラスに

<<<

成田美香子主任からのひとこと

地域の皆さんと密接に関わる職種なので、仕事面でも、生活面においても安定した気持ちの余裕を持つことが必要とされます。当社では、県からの助成金や制度をうまく活用しながらワーク・ライフ・バランス(WLB)の推進を図っています。

佐藤所長が初めて育休を取得して以来、2名の男性社員がその後に続きました。社員の3分の2を女性が占める職場では、男性の育休取得率は高い方だと思います。WLBについての研修を受けただけではなく、職場にその意識は浸透していくもの。実践を重ね見えるかたち」にすることで、日頃からの社員一人ひとりの協力体制もいい方向へと変わってきたを感じています。



仕事と育児・家庭の両立支援に取り組む企業を応援します! パート2

現在、県では、労働者のライフステージに応じた柔軟な働き方や休暇・休業の取得がしやすい職場の実現に向けて、仕事と育児・家庭が両立できる環境づくりに取り組んでいる企業に、奨励金を支給しています。

【管理職休業等奨励金】

管理職が次のいずれかを取得した場合に、事業主に20万円(1回限り)支給します。

(1) 介護休業を10日以上取得した場合

(2) 介護のための所定労働時間の短縮措置を1ヶ月以上利用した場合

(3) 育児のための所定労働時間の短縮措置を1ヶ月以上利用した場合

※ただし、(3)については、男性管理職に限ります。

※県内に事業所がある常時雇用労働者300人以下の雇用保険適用事業所であることなど、他にも必要な要件があります。

支給要件や申請方法など、詳しくは秋田県少子化対策局(018-860-1249)まで

「秋田市民おやこミュージカルを上演する会」（秋田市）

2010年公演『かーごめ かごめ』のようす



できる演劇グループが秋田市にあります。

「秋田市民おやこミュージカルを上演する会」は、今年で創立28年目。代表の佐藤修三さんによる演技指導のもと、毎年3月下旬に説明会を開いて会員を募り、稽古を重ね、夏に公演を行います。ミュージカルは、演出も、脚本も、音楽も、すべてが書き下ろしのオリジナル。演奏は、秋田大学吹奏楽団の学生、OB、OGのみなさんが担当します。

今年は、7月に秋田市文化会館でミュージカル『カラスなぜなく』を上演しました。今年度の会員は、小学生から50代後半まで構成された32名。震災の影響で例年より人数が少なく、稽古場の確保などさまざまな面で困難を感じた分、全員が力をあわせて臨んだ公演は大成功を収めました。

もし自分が家族と一緒に舞台に立ち、踊って、歌って、演技をしたら…そんな姿を想像できるでしょうか？ ミュージカルを鑑賞するのとは一味違う楽しさがあるはずです。演技の経験が無くとも、誰でも気軽に参加



親子で舞台に上るのは貴重な経験です

役者だけではありません。衣装、音響や子どもの見守りなど裏方の仕事にも携わる、文字通り「手作りのミュージカル」です。家族だけではなく、幅広い年齢層の人々と関わり、同じ目標に向かって「みんなでつくる」喜びを共有します。

今では、かつてミュージカルに参加した子どもが親となり、自分の子どもを連れてくるケースもあるそうです。いきいきと自分を表現する活動を通じて、子どもたちは健やかに成長していきます。

秋田市民おやこミュージカルを上演する会 代表:佐藤修三 事務局TEL:090-5846-5340(安宅) ※親子以外でも参加できます。

あなたの街の
男女共同参画センター



中央男女共同参画センターでお待ちしています！

センターは、性別に関わりなく、その人らしい生き方ができる男女共同参画社会実現のために、県が設置した施設です。交流サロンや研修室も利用できます。どうぞ気軽に立ち寄りください！

〒010-0001 秋田市中通二丁目3-8 アトリオン6階、7階 TEL018-836-7853
開館時間／平日：午前9時～午後9時／土・日・祝日：午前9時～午後5時
休館日／12/29～1/3、アトリオン休館日(2月第4日曜日、9月第1日曜日)

※節電・停電等により、開館時間を縮減している場合があります。事前に電話などで御確認ください。
○ハーモニー相談室(男女共同参画相談室)を設置しています。(本誌3ページ参照)





秋田は自然に恵まれた美しい県であることを実感しながら訪ねたのは、美郷町にある株式会社小貫建設。男性30名、女性2名と男性の多い職場です。

「実は、育児より介護休暇の利用が多いんです」と話す小貫健取締役。仕事を両立させるための取り組みについて、お話を伺いました。

当社では、従業員に仕事を続けても

従業員を「優秀な人材」と話す小貫取締役の温かな雰囲気も、職場のコミュニケーションをよくしていると感じました。

現在も3名が介護休暇制度を利用し、仕事を介護を両立させていくとのことで、仕事と家庭の両立は、男女に関わらず大事なテーマだと思いました。

うたつめに、家庭環境や健康を把握することが必要と考えています。初めは、業務の安全性を図るための取り組みでしたのが、高齢の親と同居しているといった家庭環境を知ることで、会社として細かな配慮が可能になっているんです。

また、各現場のグループが作業内容により変化するので、普段から声を掛け合い、仕事に取り組む体制ができています。会議を自由参加としたり、レクリエーションの実施などを通して、従業員同士が理解しあう関係が自然にできるようになります。お互いに協力しあえるので、休暇も取りやすいのではないかとうか。また、業務のシフト体制を前週に確認するようにしたこと、従業員にとっては休暇の予定が立てやすくなっているようです。

「コーチング」

コーチングスキル

- [傾聴] 相手の話をしっかりと「聴く」こと
- [質問] 相手の答えを引き出す問い合わせをする
- [承認] 相手の行動など事実を「認めること

コーチング

- 自己実現の手伝いを目的とする
- 共感・信頼が最大の教科書
- 正解はない。必要なことはその人の中にある

ティーチング

- 上司や教師が指示や助言を与え指導する
- 技能・経験・知識が重要
- 明確な答えがある

知ってるつもり!?

イマドキの男女共同参画

コーチングとは、相手の可能性を引き出し、自ら考え、行動するためのお手伝いをするコミュニケーションのスキルです。その人が生活と仕事における可能性を最大限に発揮できるように、コーチはコーチングスキルを使ってサポートします。

最近、各地で女性のためのコーチングセミナーが開催されています。自己実現や夢を達成したいという願望を持つ女性が増えてきたのかもしれません。コーチングを受ける、コーチになるために学ぶ、どちらもより輝く自分に出会うチャンスかも。

連載♪

まいちゃんの素朴な疑問



いんふおめ～しょん

**男女共同参画講演会
「ワーク・ライフ・バランス～仕事と介護の両立～」を開催しました。**

仕事を続けながら介護を続けるためにはどうしたらよいのか、平成23年10月7日秋田県庁において、ワーク・ライフ・バランスの講演会を開催しました。

講師は、介護・暮らしのジャーナリストでNPO法人パオッコ～離れて暮らす親のケアを考える会～理事長の太田差恵子さん。ご自身が出会った様々な「仕事と介護の両立の困難さに直面した家族」の事例を挙げ、わかりやすくご説明くださいました。

まず、介護が長期化することを考え、介護を支えていくためにも、自分自身の人生設計のためにも、可能な限り仕事を続けることの重要性について述べられました。そしてその上で、介護が始まつた際には、自分のことも大切にしながら介護していくことが重要であると話されました。

また、「親と子」、「子世代の夫婦、兄弟姉妹」の間でのコミュニケーションの重要性についても述べられ、「親は心配をかけないよう病気などを隠すことが多い。親に関しては『便りの無いのは良い便り』とは言えないのです」と太田さん。介護の話題は避けがちになってしまふけれども、お互いに、それぞれの状況を理解し合い、



一つのチームとして役割分担し協力していくかなくては、介護は成り立たないと話されました。

少子高齢化の進む今、介護の現場でも“男女共同参画の実現”は急務のようです。

編集後記

デートDV予防セミナーでは、高校生の素直な意見を聞くことができました。若々しく柔軟な発想で様々な経験を重ね、自分の可能性を広げてほしいと思います。男子だから、女子だからといって、可能性が狭まるこのないように。

受講した高校生から「もっと話をするべき」という声が多かったデートDV予防セミナー。世代に関わらず、家庭でも職場でも学校でも心を開いて会話をできる雰囲気を大にしたいと感じました。（坂本 佐穂）



「La Vita」を読んでの“ご意見・ご感想”をお寄せ下さい。お待ちしています。

秋田県生活環境部男女共同参画課 〒010-8570 秋田市山王四丁目1番1号

TEL.018-860-1556 FAX.018-860-3895 E-mail:persons@pref.akita.lg.jp